

武満徹を探す三日間の旅

 FENICE SACAY

フェニーチェ堺 グランドオープン presents

武満徹 3DAY'S

Looking for the Mr. Toru Takemitsu

2019年12月27日～29日 フェニーチェ堺 小ホール

- DAY1 12月27日 杉山洋一プロデュース 武満徹室内楽名品選
- DAY2 12月28日 小味渕彦之プロデュース 西岡茂樹選抜指揮によるソング名品選
- DAY3 12月29日 武満真樹プロデュース 武満徹の友人たちトーク&ライブ

杉山洋一 プロデュース 武満徹室内楽名品選

武満徹が世界にはばたいたいのはニューヨーク・フィル創立125周年記念委嘱の「ノヴェンバー・ステップス」である。では、なぜまだ無名の東洋の作曲家にこんな大きな依頼が来たのか。それは、それ以前の武満作品を音楽監督バーンスタインが評価したからに他ならない。武満初期作品はストラヴィンスキーも評価していたし、ブーレーズは自らの演奏会でドビュッシーなどと並べてこの時期の武満作品を取り上げている。後に世界音楽史の1ページを飾ることになった武満の天才性は、この時期に最も先鋭にほとぼしるように現れている。その中でも真の名作をミラノを中心に国際的に活躍する作曲家指揮者杉山洋一が選り出し、自ら選んだ演奏家とともにフェニーチェ堺の船出に華を添える。

2019年12月27日、2020年へのカウントダウン真っ最中。「人類の進歩と調和」をテーマに熱気と興奮で大成功を収めた70年大阪万博からはや50年。日本の英知を結集して、世界に日本の文化をかつてないほど強くアピールした大阪万博のエネルギーを、フェニーチェ堺は受け継いでいます。大阪万博において日本最先端の音楽ナビゲーター役を務めた武満徹に焦点を合わせ、70年に向けて武満の力強い歩みを、考え得る最高の演奏家とともに見つめ直します。そして、武満が日本の伝統文化と最先端の前衛音楽をどのように融合していったのか、その過程をつまびらかにしてゆきます。彼が自らの語法を生み出す原動力となった重要な作品ばかりを集めて、万博鉄鋼館のための「クロッシング」の原型である「スタンザ」までを一挙に紹介する試み。厳しくどこまでも甘い、武満徹の原点を余すところなく聴き尽くします。



杉山洋一
作曲家 / 指揮者

<曲目>

- ・サクリファイス fl,lute,vib 1962
- ・ユーカリプスII fl,ob,Hp1971
- ・スタンザI 独唱,vib,gt,hp,pf,cond 1969
- ・環(リング) 3人の奏者のためのfl,lute,gt 1961
- ・遮られない休息I,II,III pf 1959
- ・ヴァレリア 2picc,org,gt,vn,vc,cond 1969
- ・悲歌 vn,pf 1966

トーク:杉山洋一&荒井英治



荒井英治
ヴァイオリン



海野幹雄
チェロ



近藤孝憲
フルート・ピッコロ



奥田律
第2ピッコロ



大植圭太郎
オーボエ



黒田亜樹
ピアノ



小林弘人
エレクトリック・オルガン



山田岳
ギター



高本一郎
リュート



吉野直子
ハーブ



稲野珠緒
打楽器



松井亜希
ソプラノ

武満真樹 プロデュース 武満徹の友人たちトーク&ライブ

1930年生まれ、1996年没の武満徹は、直接彼を知る世代が少なくなりつつある。なかでも演奏家で直接の深い付き合いがあった人たちは貴重な。今回は、家族ぐるみで親しかったギタリストの荘村清志と、直接の友人の中で最も若い世代の一人cobaとを招き、誰よりも、表も裏も知り尽くしている愛娘真樹のプロデュース司会により、武満徹の実像、日常をうかがう。初日室内楽のプロデューサー杉山洋一も、武満本人と若い演奏家をつなぐ世代の責任感を強く感じている一人だが、このようなトークの回を成立させることができるのも今日ならではであり、ファンの皆様もこの超貴重な機会をお見逃しにならないよう。



武満真樹
プロデューサー

小味渚彦之 プロデュース 西岡茂樹選抜指揮によるソング名品選

武満徹の合唱作品の数はそれほど多くはない。数々の器楽曲、室内楽作品、オーケストラ曲がある中で、メインの作品群と言えるものではない。それでも、こうして武満の演奏会を企画した時に、合唱の一夜を設けたいと考えたのは、「歌」への憧れが武満の創作を考える時に不可欠な要素として浮かび上がってくるからである。武満の合唱曲として文字どおり《混声合唱のための「うた」》という作品群がある。1曲を除くと、東京混声合唱団のアンコール・ピースとして書かれたもので、日本古謡《さくら》以外は、主に映画やドラマなど様々な機会に武満自身が作曲した歌を原曲としている。丁寧に綴られたメロディを美しいハーモニーが包み込む様子は、武満の創作を考える時に決して外すことができない。これまで西岡茂樹が武満徹の合唱曲を取り上げる機会はあまりなかった。それだけに、どんな表現が生まれるのか、大いなる期待を感じて指揮者に選んだ。《うた》に加えて、滅多に演奏されない《混声合唱のための「風の馬」》も取り上げるが、この演奏会のために西岡が活動の拠点とする豊中混声合唱団のメンバーを軸に、プロアマ混成の特別合唱団が編成された。西岡の合唱と音楽に対する真摯な取り組みが、武満の合唱作品に新たな光をあてることを確信している。



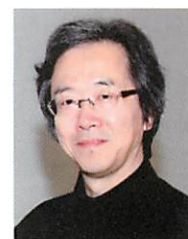
小味渚彦之
音楽評論家

- <曲目> 武満徹混声合唱のための「うた」から 小さな空(詞:武満徹) 小さな部屋で(詞:川路明) 恋のかくれんぼ(詞:谷川俊太郎)
うたうだけ(詞:谷川俊太郎) 翼(詞:武満徹) 島へ(詞:井沢満) ○と△の歌(詞:武満徹)
死んだ男の残したものは(詞:谷川俊太郎) さようなら(詞:秋山邦晴) 混声合唱のための「風の馬」(詞:秋山邦晴)
ソロ 小さな空(詞:武満徹) 三月のうた(詞:谷川俊太郎) 燃える秋(詞:五木寛之) うたうだけ(詞:谷川俊太郎)
明日ハ晴レカナ、曇リカナ(詞:武満徹) 歌:中嶋康子ほか ピアノ:岡本佐紀子

小味渚彦之と西岡茂樹によるトーク・コーナー

指揮:西岡茂樹 特別編成合唱団

- <ソプラノ> 高山景子、鳥井満代、中嶋康子、西岡恵子、増田和希子、水円和、安井聡代、山本直子、吉松遥奈
<アルト> 井上真由美、沖野萌、酒井友里恵、佐野環、戸田英子、古根川史世、益田早織、村井優美
<テノール> 秋山浩太、岡本弘信、川野貴之、小泉徹也、安井直人、山際康弘、禮場宗一郎
<バス> 笠原直也、坂井威文、清水英幸、鈴木宏明、西尾岳史、畑利朗、林 隆史、前原克彦、山本尚義



西岡茂樹
指揮者

12月29日(日) 開場14:30/開演15:00

- 前半: トーク 司会=武満真樹
トークゲスト=荘村清志(ギタリスト)、coba(アコーディオニスト、作曲家)
後半: ライブ ギター独奏=荘村清志

- 武満徹:「ギターのための12の歌」 ロンドンデリーの歌(アイルランド民謡)
オーバー・ザ・レインボー(H・アーレン) サマータイム(ガーシュウィン)
早春賦(中田章) 失われた恋(J・コスマ) 星の世界(C・C・コンヴァース)
シークレット・ラヴ(S・フェイン) ヒア・ゼア・アンド・エヴリウェア(レノン/マッカートニー)
ミッシェル(レノン/マッカートニー) ヘイ・ジュード(レノン/マッカートニー)
イエスタデイ(レノン/マッカートニー) インターナショナル(P・ドジェーテル) より
武満徹:フォリオス 他



荘村清志
ギタリスト



coba
アコーディオニスト・作曲家

フェニーチェ堺オープニングシリーズの 最後を飾る武満徹のミニフェスティバル3日間。

日本が世界に誇る作曲家である武満徹(1930-1996)の音楽作品は、いわゆる「現代音楽」の枠を超えた多様な広がりを持っている。没後20年を超えた今、3つの視点から武満の音楽を再認識することで、ホールの役割の一つである文化創造センターとしての発信の第一弾としたい。

初日は武満徹がニューヨーク・フィルから「ノヴェンバー・ステップス」を委嘱される理由ともなった初期の名作及びその最適な演奏者を、ミラノを中心に国際的に活躍する作曲家指揮者の杉山洋一が選り出したもの。二日目は朝日新聞はじめ各メディアで健筆をふるう上にプロデュース、ステージマネジメントなど八面六臂の活躍の音楽評論家小味淵彦之のプロデュースで武満のソングを関西のコーラスで。そのとりまとめに小味淵が選んだのは西岡茂樹。柴田南雄や高橋悠治らの信頼も厚い西岡の選んだベストメンバーで武満のソングの真髄を。そしてフィナーレは武満徹の愛娘武満真樹のプロデュースで生前武満が最も親しかった友人たち、ギタリスト荳村清志、アコーディオニストcobaとのトークとそのライブ。公私共に最も武満家と親しかった音楽家の貴重な証言。



一般発売:6/22(土) ¥4,000(全席指定・税込)

3日間通し券 ¥9,000(全席指定・税込) ※窓口・電話発売のみ

※未就学児入場不可

主催:堺市、フェニーチェ堺

助成:文化庁文化芸術振興費補助金

(劇場・音楽堂等機能強化推進事業)



独立行政法人日本芸術文化振興会 文部科学省

チケット予約

<フェニーチェ堺>

[WEB] **フェニーチェ堺 検索** <http://www.fenice-sacay.jp>

[TEL] 堺市文化振興財団チケットセンター
0570-08-0089 (10:00~18:00)

※一部携帯・CATV接続電話・IP電話からはご利用いただけません。
※車いす席は堺市文化振興財団チケットセンターでご予約ください。

[窓口] フェニーチェ堺チケット窓口
(9:00~20:00 第1・3月曜日休館 祝日の場合は開館)
※堺市立の梅文化会館・東文化会館・アルテル(美原文化会館)窓口でも購入できます。

<プレイガイド>

チケットぴあ <https://t.pia.jp/> 0570-02-9999
[Pコード141-608(12/27)、141-611(12/28)、141-612(12/29)]

ローソンチケット <https://l-tike.com/> 0570-084-005
[Lコード 55072(12/27)、55187(12/28)、55191(12/29)]

e+(イープラス) <https://eplus.jp/fenice-sacay/>
CNプレイガイド <https://www.cnplayguide.com/> 0570-08-9999

※注意 Pコード、Lコード(それぞれ日毎で違います)

公演に関するお問い合わせ フェニーチェ堺 072-228-0440
(9:00~22:00 第1・3月曜日休館 祝日の場合は開館) ※この番号では、チケットのご予約は承っておりません。

<アクセス> フェニーチェ堺(堺市民芸術文化ホール)

〒590-0061大阪府堺市堺区翁橋町2-1-1 南海高野線 なんば~堺東 約10分、堺東駅から徒歩8分

